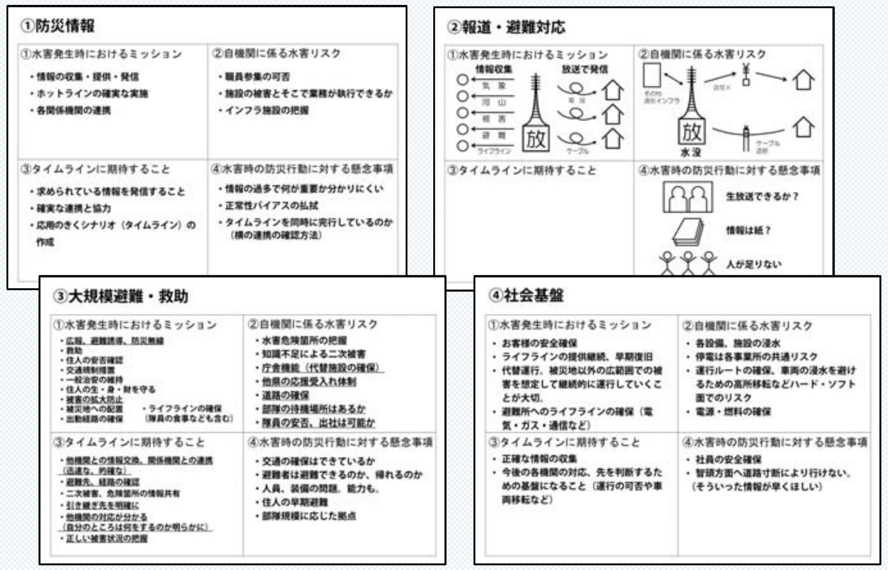
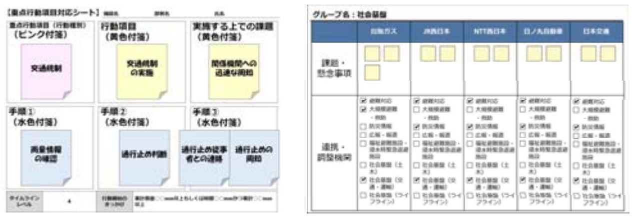
◆ 令和元年度　千代川タイムライン（TL）検討会の概要

資料1

		開催日	概要	成果
1	研修会	令和元年 7/31 （水）	◆ 水防災基礎学習…千代川概要説明（主な洪水被害、整備状況、洪水浸水想定区域図、平成30年7月豪雨の概要） ◆ タイムライン作成に向けて（先行事例の紹介、千代川TLのポイント、TL作成手順） ◆ グループワーキング【目的】ＴＬ作成に当たって自機関の行動項目や課題を理解・共有 • 自己紹介 • 本研修での気づき（自機関の水害発生時の主な行動項目と懸念事項）を発表 • グループ内で取組課題をまとめ • グループで取組課題を発表→全体で共有 基礎学習の様子 グループワークの発表の様子	◆ 研修会グループワーキング成果（グループごと） 
2	発足式	令和元年 8/7 （水）	◆ 首長挨拶（鳥取市長、倉吉市長、三朝町長、湯梨浜町長、北栄町長） ◆ 千代川水害タイムライン検討会・天神川水害タイムライン検討会設置要綱（案）について ◆ 検討会座長講演　　◆ 千代川・天神川の概要について	
3	第1回 検討会	令和元年 9/20 （金）	◆ 想定最大シナリオの把握 ＜気象情報について＞ ①TL作成で想定する台風シナリオ ②危険度に応じて発表される段階的な防災気象情報 ③TL作成で想定する台風経路と台風情報 ＜浸水状況について＞ ①想定最大規模洪水の概要 ②各観測所水位の変動状況 ③千代川水害TLにおけるTLレベル設定の考え方 ④氾濫特性の把握　⑤水害リスクの把握 ⑥最大浸水区域における施設浸水状況 ◆ グループワーキング ＜Step 1＞ 浸水リスクの把握と行動項目の選定・追加 ＜Step 2＞ グループで水害発生時の重点行動項目の抽出と整理 ＜Step 3＞ ワーキング成果発表 グループワークの様子	◆ 機関ごとのTLレベルに応じた行動項目の整理 ←第１回検討会の成果例 :TLレベルに応じた行動項目を横軸（自機関・他機関）、縦軸（重要度・影響度）に沿って付箋で整理。
4	第2回 検討会	令和元年 11/27 （水）	検討準備 ➢ 第1回検討会成果で得られた、他機関との係わりが強い重点防災行動項目について、確認・不足項目の追加を行う。 防災行動項目「いつ」の把握、「何を」の階層化 ◆ 機関グループ*ごとに防災行動項目をブレイクダウンする。 ◆ TLレベルごとに他機関と共有すべき行動を抽出し、機関グループ*ごとに発表する。 *県、市町、報道（各社統合）、ライフライン（電気・ガス統合）、　交通（各社統合） 千代川水害タイムライン（素案）	◆ 千代川TLにおける重点行動項目の課題・手順の整理と他機関の項目を確認  ←第２回検討会の成果イメージ :機関ごとに、想定災害シナリオに沿った行動項目と、他機関と共有すべき項目を整理。
5	第3回 検討会	令和元年 12月 下旬予定	検討準備 ➢ 第2回検討会で抽出された重点行動項目を実施する上での課題について、他機関と必要な連携（伝達・報告すべきこと、協力が必要なこと）を検討。 各防災行動項目を「いつ」「誰と」実施するかの確認 ◆ 第2回検討会成果（行動を実行する上での課題）を踏まえ、他機関との連携を意識しながら調整事項の抽出を行う。 ◆ 課題解決シートを用いて全体で意見交換を行うことで、課題解決へと結びつける。 各機関への意見照会　　千代川水害タイムライン（案）	◆ 千代川TL（案）の完成 第3回検討会の成果イメージ（他地域におけるタイムラインの例）
6	第4回 検討会	令和2年 2月予定	検討準備 ➢ 第3回検討会成果（行動主体・連携主体の確認）を踏まえ、千代川水害タイムラインにおける課題、調整事項の確認を行う。 ➢ 各機関への意見照会 タイムライン（案）机上演習による行動項目の確認 ◆ 行動項目を主体的に行う機関・支援を行う機関を再確認し、課題や疑問点の抽出を行う。 ◆ タイムラインの特徴の1つである「顔の見える関係」を実践し、一体感を高め、共通理解を確認する。	◆ 千代川TL（案）を用いた机上演習 第4回検討会の成果イメージ→ :TLの読み合わせを通し、TLの特徴の1つである「顔の見える関係」を実践し、一体感を高め、共通理解を確認。 （他地域における全体読み合わせのイメージ）
7	完成式	令和2年 3月予定	➢ 千代川水害タイムラインの運用を開始する。	